

2 授業のプランニング

児童生徒に、授業を通して、どのような資質・能力を育みたいのかを明確にする、つまり、ねらいとする道徳的価値について児童生徒がどのような状況にあり、どのような児童生徒を育てたいのかを整理し、学びの方向を定めることが大切です。

ねらいの明確化



授業をする前に、本時で扱う道徳的価値を理解し、指導する重点が決まっていますか。

本時で取り扱う内容項目に含まれる道徳的価値について、その意味を解釈し、どこに重点を置いて指導するのかを決めることが大切です。

『小学校学習指導要領』「第3章 特別の教科 道徳」

ここに挙げられている内容項目は、児童が（中学校の3年間に生徒が）人間として他者と（他者とともに）よりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものである。

学習指導要領に示されている内容項目は、小学校では6年間、中学校では3年間で学びを深める内容であることを踏まえ、該当学年における道徳科の1時間の内容となるように分析することが必要となります。本時は、どこに焦点を置いて指導するのかを決めることが大切です。

例えば、親切・思いやりの内容項目では、次のような段階で指導することが明記されています。

段階	内容項目	指導の重点
低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	温かい心で接し、親切にする大切さ
中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	思いやりの心を育てる
高学年	誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。	相手の立場に立った親切
中学校	思いやりの心をもって人と接して、人間愛の精神を深めること。	人間尊重の精神を深める

児童生徒の実態把握



内容項目における児童生徒の実態把握ができていますか。

学びの主体である児童生徒の姿を把握することは、授業の目標を設定したり、指導の工夫を考えたりする際の手掛かりになります。児童生徒の様子をできるだけ正確に把握することができるように、事前アンケートをとったり、同じ内容項目における児童生徒の学習の記録を手掛かりに把握したりするなど、多様な方法で情報の収集に努めていきましょう。

学習指導案の記述例

1年生の児童は、自分たちの世話をしてくれている親や祖父母、学校、地域の人々など多くの人たちの思いに気付かず、その善意をまるで当たり前のことのように感じている面がある。自分たちの周りには世話をしてくれている人が多くいて、その人たちの善意や愛情に支えられていることに気付くことができるように以下の指導を行ってきた。

①生活科「花や野菜を育てよう」

地域の方と学校園にサツマイモの苗を植える活動を通し、地域に指導した。

本時でねらう内容項目に関わり、どんな指導をして、どんな課題があるのかを把握することが大切です。

②生活科「わたしの学校どんなところ」

学校探検の活動を通して、学校には、いろいろな先生や職員が自分たちのために仕事をしていていることを知り、感謝の気持ちを持つことができるように指導した。

③その他の教育活動

6年生との清掃活動やフレンズデー（異学年交流活動）などの活動を通して、異学年の友だちとつながりを広げて、感謝の気持ちを持つことができるように指導した。

これらの指導の結果、子どもたちは、地域の方や6年生など自分たちの身の回りの人に、「ありがとう」と感謝の気持ちを持つことができるようになった。しかし、身の回りの人々がどのような思いで自分たちの世話をしてくれているかを思いやり、その人々へ心から感謝の気持ちを持って、進んで「ありがとう。」の気持ちを表すことができている子どもたちは少ない。そこで、身の回りの人たちの思いに気づき、進んで感謝の気持ちを持つことができる子どもを育てるために、自分たちの世話をしてくれている人たちの思いを考えさせることで、その人たちの善意や愛情に気付けるようにしたい。

平成29・30年度推進校 渋川小学校1年の実践

目標の設定



期待される児童生徒の具体的な姿で目標の設定ができていますか。

児童生徒の実態を基に、児童生徒に本時で学ばせたいことを具体化し、目標を設定します。そこで設定した目標が、児童生徒からかけ離れていたり、抽象的であったりするのは望ましくありません。育成すべき児童生徒の具体的な姿をイメージしながら目標を設定することが求められます。深い学びにつながる授業改善をするには、学ばせたいことの具体的な姿をどれだけ描けるかが大切です。

学習指導案の記述例

記述例のように、深い学びにつなぐ授業改善をするために、本時で目指す生徒のつづきとして、学ばせたいことの具体的な姿を明記することも工夫の一つです。どのような姿を目指して授業をするのかを明確にすることが大切です。

本時のねらい

健二の悩みや心の変容を自分との関わりで考える活動を通して、失敗も含めて自己の責任を受け止め、逃げずに誠意ある行動をとることが、他者にとっても自分にとってもよいことであることを理解し、人間としての誇りをもった生き方をしようとする意欲を養う。

教材名 「裏庭でのできごと」 (出典：「あすを生きる」 日本文教出版)

《めざす生徒のつづき》

そうか。人に見られているかとか、放っておいても済む話かどうかとかに関わらず、自分のしたこと責任をもって逃げずに誠実に行動するって、難しいけれど、そうすることで自信につながり、自分が成長できるんだ。

平成29・30年度推進校 老上中学校 1年の実践

教材分析



授業に使う教材の教材分析・解釈ができていますか。

授業で扱う教材について、事前の分析と解釈をしっかり行うことが、その教材の魅力を生かした働きかけを考えるきっかけになり、よりよい授業づくりにつながります。本時で学ばせたい目標に関わる事項がどのように含まれているかを検討し、その目標に近づくために児童生徒に考えさせたい場面を焦点化します。

教材分析の例

- ①教材の場面ごとの登場人物の行為、心の動きなどのキーワードとなる表現を読み取る。
- ②登場人物の行為やその奥にある心の動きに含まれている価値を押さえる。
- ③主人公の行為や心の動きを支えている価値を考え、本時のねらいにかかわる中心的な価値や関連する価値をはっきりさせる。
- ④本時のねらいに迫る中心場面を考える。
 - ・指導するねらいによって中心場面は異なる。
 [要となる場面]
 主人公の人柄や主人公が道徳的問題に直面しているところ。
 中心価値に反する主人公の言動(場面)が描かれているところ。
 主人公が変化するきっかけや葛藤場面。
 主人公が自分の生き方として、どんな決断、選択をしたのか、なぜ、その生き方(行為)を選択したのかが描かれているところ。
 主人公が決断し、選択した生き方に納得した姿が描かれているところ。
- ⑤中心発問を考える。
 - ・児童生徒の多様な考え方を引き出せるような発問を考える。
 - ・文章に書かれている内容や行動を問うだけの読み取りの発問にならないように吟味する。
- ⑥中心発問につなぐ基本発問や深い学びにつなぐ補助発問を考える。

児童生徒の実態を踏まえた上で、予想される心の動きを具体的に想定することが深い学びへの鍵となります。教材文に書いてあることを尋ねる問いなど、閉じられた発問にしないことが大切です。児童生徒の多様な考えを引き出せる発問にするためには、問い方の十分な吟味が必要です。

3 授業のプロセス

道徳科の学習指導過程は、各主題の特質や児童生徒の実態に応じて考えます。読み物教材を用いた学習では、次に示す学習指導過程が多く見られます。しかし、固定化、形式化することなく、弾力的に扱うよう留意する必要があります。授業の中で、児童生徒に考えさせたいことを明確にして、どんな働きかけをするとよいのか、具体的な手立てや方法を考えることが大切です。授業の目標を達成できるかという視点から吟味し、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなぐ工夫が求められます。

段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の意識	指導上の留意点 (評価の視点)
導入	1 ねらいに関わる問題意識をもつ。 (ねらいとする価値に気付く)	◇ねらいに関わる経験を振り返る。 ・行為と意識のズレを自覚する発問など ◇見通しをもって主体的に考え、学ぶことができるような学習課題を提示する。	○学習課題を提示し、本時のねらいへの関心・意欲を高め、課題意識を持たせる。 ・アンケート調査等の結果の提示 ・価値内容に関する場面絵や写真等の提示 など
	2 教材「○○」を読んで、ねらいとする道徳的価値を自分と関わらせて考える。 【例】 (1) ～の時の、▲▲の気持ちを考える。 (2) △△が、～した時の理由を考える。 (3) △△のしたことについて考える。 (教材や生活体験などを生かしながら、ねらいとする価値を多面的・多角的に考える。)	○▲▲(ほかの登場人物)は、△△のことを、どう思ったでしょう。 ・…………… ・…………… ◎△△は、どんな考えで～したのでしょうか。 ・…………… ・…………… ○△△のしたことをごどう思いますか。 ・…………… ・…………… ・児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問構成を工夫する。 ・他者の考えと比べながら自分の考えを深めるような展開となるようにする。 ・一人ひとりが意欲的で主体的に取り組むことができるよう表現活動や話し合い活動を仕組む。	○場面絵やキーワードを提示することで、教材の内容を把握しやすくする。 ・スライド、紙人形等の活用 ・繰り返し提示、部分提示 ・場面絵の提示 など ○ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。 ○ペアやグループ活動を取り入れ、多様な考え方に触れることで、自分の考えを検討し、本時のねらいへ迫らせる。 ・書く活動 ・役割演技、動作化 ・ネームプレートの活用 ・付箋・ボードなどの活用 ・ICTの効果的な活用 ☆(例)～がしたことについて自分事として考えようとしている。 (発言、ワークシート)
展開後段	3.(捉えた道徳的価値に照らして)さらに深く自分を振り返る。	◇今日の学習や自分自身を振り返って、どんなことを感じましたか。(過去・現在・これからの自分と向き合う) ・…………… ・…………… ◇△△と同じような経験はなかったか振り返りましょう。 ・類似体験を想起する場の設定 ・今まで・今・これからの自分について考えさせる発問 ・自分自身の生活を振り返り考えを深めさせる発問 など ・体験を通して感じたことや考えたこと、また日常の具体的な事柄を話題にするなど、教材に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自己を見つめることが可能になるよう発問を工夫する。	○写真を掲示するなど、▲▲体験活動をした時の気持ちを想像することで、自分の生活を振り返らせる。 ・共通体験の想起 ・写真やVTRの提示 ・私たちの道徳 ・書く活動 など ☆(例)～することの大切さについて自分との関わりで深く考えようとしている。 (発言、ワークシート)
	4. 本時のまとめをする。 5. 教師の説話をする。	◇今日の学習や自分自身を振り返って、考えたことを書きましょう。 ◇価値に対する思いや考えをまとめたり、価値の実現のよさや難しさを確認したりして、今後につなげる。 ・教師の説話、作文や日記、手紙、写真などの提示 ・児童生徒の感想に対する価値付け、称賛など	○自分のこれまでの生活と重ねて考えさせることで、考えの深まりを自覚させ、自分の生き方につなぐ。 ○本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高める。 ・教師の説話 ・ICTの活用 ・ことわざ、格言 ・写真やVTRの提示 など ☆(例)～することの難しさについて多面的・多角的に考えようとしている。 (発言、ワークシート)
終末			

【事前・事後の指導】

- ・日常生活において、○○の機会をとらえ、意図的な場を設定し、○○の気持ちを育む。
- ・いろいろな行事や各教科等で、本時の学習と関連した指導の場を設定する。